

岡山インターハイ東京都選手団の展望

文責 強化委員長 小林 隆雄

7.5 訂正

南関東大会観戦記

今年の南関東大会は、6月17日から20日まで地元東京・駒沢オリンピック公園陸上競技場で8年ぶりに行われた。梅雨らしく大会前日には雨が混じったが、大会期間中は暑い時間帯もあり概ね良いコンディションで4日間の競技は進行された。

この南関東大会は、全国屈指のハイレベル地区であることは周知の事実であるが、その中であって東京都選手団は岡山インターハイへの出場権を得るべく奮闘した。

その結果、東京都を代表して岡山県で行われるインターハイへ出場するのは、男子が延べ32種目と6チーム、女子は延べ27種目と3チーム、男女合計で延べ59種目と9チームの出場権を得た。

その数は、東京都史上最多であった昨年を男女ともに下回ったものの、優勝種目数は男子9種目女子6種目合計15種目と健闘した。インターハイ出場校数は23校。出場人数は合計99名とした。(資料①参照)

更に、全国大会での優勝候補も多くレベルの高い種目も数多く存在する。(資料②参照)

逆に、東京都からインターハイに出場できなかったのは、男子では1500m・5000mの長距離種目と円盤投。女子では400m・5000m競歩であった。ともにレベルの高い決勝となり一歩及ばず入賞を逃した。来年こそは全種目でのインターハイ出場を目指したい。

記録的には、男子400mで東京高校の井上 大地(2年)が東京都高校タイ記録となる46秒99をマークしたのをはじめ、男子4×100mリレーでは城西高校が40秒26の大会新記録を樹立した。

女子では、大会記録まであとわずかとした七種競技の大野 優衣(白梅学園2年)、女子4×100mリレーの東京高校が45秒78とともに全国ランクトップ相当に位置している。また、リレー種目では4種目すべての種目に全国大会での活躍が期待される。

また、男子400mでは前述の通り井上 大地(東京高校2)が46秒99をマークしたが、400mHでも51秒59として両種目ともインターハイでも優勝候補の一人となった。井上自身両種目の経験が少ないだけに、これからの取り組み次第では頂点を極める可能性が高いと思われる。男子走幅跳の橋岡 優輝(八王子3)は7m70を追い風参考でマークしたが、この関東大会では7m60台をコンスタントに記録しており安定している。また、次週の日本選手権でも社会人・大学生に互角に戦い入賞した。このことから全国を制するの間違いなさだろう。

女子では100mの福田 真衣(東京3)が今季11秒台をマークしており、橋岡同様に日本選手権で8位に入賞したこともありインターハイでは間違いなく優勝を争うことが予想される。七種競技の大野選手は関東大会の前週に日本選手権混成に出場し高校2年生歴代最高の5261点をマークしている。3年生に上位者が2名いるが優勝争いに絡むことは間違いない。最初の種目である100mHで勢いをつけたいところだ。リレー種目では、男子4×100mでは城西高校がランキング2位でインターハイに臨む。八王子高校・東京高校も40秒台をマークしており決勝進出を目指したいところだ。4×400mでは東京高校がエース井上 大地に先頭との差をどれだけ少なくしてバトンを渡せるかにかかっている。女子4×100mでは現在全国トップランキングの東京高校が昨年に続く2連覇を目指している。ライバルは地元・岡山県の倉敷中央高校だが、エース斉藤選手は日本選手権2位の實力者であるだけにゴールまで競り合うことだろう。4×400mでも東京高校が優勝を狙う。関東大会では全員2年生で決勝を走ったが、これに福田をはじめとする3年生が加入すれば「もう一段階上の」レースが可能であることから期待が出来る。

これらの要素から、今年の岡山インターハイでは東京都選手団が大暴れできるものと期待する。昨年の和歌山インターハイでは都道府県対抗得点を2位としたが、今年は是非とも「強い!東京都」を自負し、全国NO1の座を獲得したいものである。そのためにも、万全のコンディションで岡山に出向いてもらいたい。

<資料1> 南関東大会四都県別インターハイ出場数と優勝種目数

	東 京	神 奈 川	千 葉	山 梨
男子出場数	32種目 6チーム	29種目 2チーム	47種目 3チーム	6種目 1チーム
女子出場数	27種目 3チーム	31種目 6チーム	25種目 3チーム	3種目 0チーム
男女合計	59種目 9チーム	60種目 8チーム	72種目 6チーム	9種目 1チーム
優勝種目数	15種目	12種目	9種目	2種目

<資料2> 岡山インターハイで活躍が期待される高校ランキング上位者（日本選手権終了時点）

男子	400m	46秒99	井上 大地（東京2）3位
	400mH	51秒59	井上 大地（東京2）5位
	走幅跳	7m68	橋岡 優輝（八王子3）1位
		7m39	浅見 由月（都八王子東3）6位
	ハンマー投	59m60	石井 大稀（都府中工業3）6位
	八種競技	5387点	加藤 舜涼（都城東2）10位
	4×100mリレー	40秒24	城西大城西高校 2位
4×400mリレー	3分12秒79	東京高校 7位	
女子	100m	11秒91	福田 真衣（東京3）4位
		11秒96	斉田 果歩（東京3）8位
	200m	24秒56	福田 真衣（東京3）9位
	800m	2分9秒98	陣在 ほのか（城西大城西3）10位
	100mH	13秒91	大野 優衣（白梅学園2）2位
	走高跳	1m72	栗原 理沙（都東大和3）9位
	砲丸投	13m31	小山田 芙由子（東京1）5位
		12m93	草野 夏咲（東京高校3）10位
	円盤投	41m47	田中 夢乃（東京3）10位
	七種競技	5261点	大野 優衣（白梅学園2）3位 高校2年歴代最高
4890点		栗原 理沙（都東大和3）6位	
4817点		大竹 風美子（東京3）7位	
4×100mリレー	45秒78	東京高校 1位	
4×400mリレー	3分43秒70	東京高校 4位	

<付> 活躍する東京都出身選手たち

☆第100回日本選手権 愛知県 パロマ瑞穂スタジアム 6月24日～26日

男子走幅跳 橋岡 優輝（八王子3） 7m55 8位

女子100m 福田 真衣（東京高校3） 12秒13 8位

女子棒高跳 青柳 有香（都雪谷3） 3m90 5位 東京都高校新記録

☆日本選手権混成競技 長野県 松本市陸上競技場 6月11日・12日

女子七種競技 大野 優衣（白梅学園2） 5261点 6位 高校2年歴代最高

☆活躍する東京都出身選手

祝 オリンピック出場 ブラジル リオデジャネイロ 8月12日～

男子100m・4×100mリレー ケンブリッジ 飛鳥（ドーム・東京高校出身）

男子5000m・10000m 大迫 傑（ナイキ・町田市金井中出身）

女子10000m 関根 花観（日本郵政グループ・町田市金井中

出身）

候補選手

女子4×100mリレー エドバー イヨバ（日本大学1・東京高校出身）

日本チームが世界ランク16位以内になれば出場決定

アジア・ジュニア大会 ベトナム ホーチミン 6月3日～6月6日

男子100m 大嶋 健太（日本大学1・東京高校出身） 10秒50 4位

男子円盤投 安藤 夢（東海大学2・東京高校出身） 58m80 2位 日本ジュニア新記録

世界U20選手権（世界ジュニア） ポーランド 7月19日～24日

男子100m 大嶋 健太（日本大学1・東京高校出身） *4×100mリレー

男子110mH 平松 パブデンパ（日本大学1・都芦花高校出身）

男子円盤投 安藤 夢（東海大学2・東京高校出身）

男子走幅跳 橋岡 優輝 (八王子3) * 4 × 100mリレー